

【参考】2040年度におけるエネルギー需給の見通し

- 2040年度エネルギー需給の見通しは、諸外国における分析手法も参考としながら、**様々な不確実性が存在することを念頭に、複数のシナリオを用いた一定の幅**として提示。

		2023年度 (速報値)	2040年度 (見通し)
エネルギー自給率		15.2%	3～4割程度
発電電力量		9854億kWh	1.1～1.2兆kWh程度
電源構成	再エネ	22.9%	4～5割程度
	太陽光	9.8%	23～29%程度
	風力	1.1%	4～8%程度
	水力	7.6%	8～10%程度
	地熱	0.3%	1～2%程度
	バイオマス	4.1%	5～6%程度
	原子力	8.5%	2割程度
火力		68.6%	3～4割程度
最終エネルギー消費量		3.0億kL	2.6～2.7億kL程度
温室効果ガス削減割合 (2013年度比)		22.9% ※2022年度実績	73%

(参考) 新たなエネルギー需給見通しでは、2040年度73%削減実現に至る場合に加え、実現に至らないシナリオ(61%削減)も参考値として提示。73%削減に至る場合の2040年度における天然ガスの一次エネルギー供給量は5300～6100万トン程度だが、61%削減シナリオでは7400万トン程度の見通し。 9

図12 2040年度におけるエネルギー需給の見通し
(令和7年2月 経済産業省_資源エネルギー庁HP発表資料より引用)

3) 再稼働・新設・SMRへの注力

原子力についても脱炭素電源として、再稼働や新規建設を進め、さらに小型モジュール炉(SMR: Small Modular Reactor)や高温ガス炉、さらには核融合技術など次世代原子力技術の導入も視野に入れています。

SMR (小型モジュール炉)

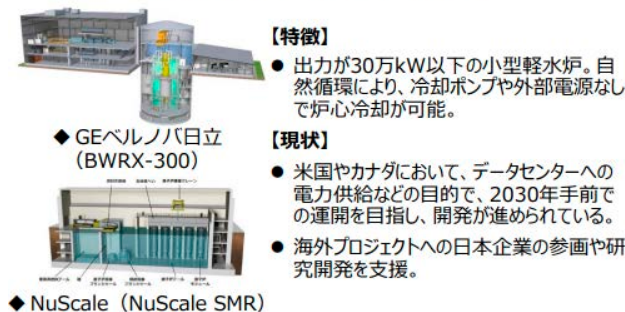


図13 小型モジュール炉
(令和7年6月 経済産業省_資源エネルギー庁HP発表資料より引用)